

## ～あなたは日々作り変えられていますか？～

もし、あなたが車に乗っているとき突然の豪雨に見舞われたらどうしますか。真っ先にワイパーをかけるのではないのでしょうか。しかし、いくらワイパーをかけてもフロントガラスが油膜で覆われていたら思うように前を見ることはできません。あなたの目の前もこのようになっていませんか？

私たちは生きていく中で時に目の前が見えなくなって、悩んだり脱線したりすることがあります。しかし聖書をみると、自分とよく似た状況を乗り越えた人たちの姿が記されており、私たちはみことばを通して脱出法を学び、実践することができます。とかく私たちは「欲」に目がくらんで前が見えなくなることがあります。その「欲」について日本を変えた人の一人である賀川豊彦は、欲には小欲と大欲とがあり、神様のような思いでその欲を用いる大欲であれば、たとえすぐに成功しなくても結果良いものとなり、自分の思いでその欲を用いる小欲なら、自分の事ばかりに心をとられ結果悪いものとなることを語っています。私たちは「欲」と聞くと悪いイメージを持ってしまいます。本来の欲は神様が与えてくださった恵みです。しかしその欲を自分のために用いる、つまり的を外してしまうとそれは罪となります。しかし、私たちクリスチャンは神様の思いで歩むことができます。ですから私たちは賀川やこの日本を切り開き、変えていったクリスチャンたちの思いを担って、自分たちが遣わされたところで元気に羽ばたかなければいけません。それはなにか大きいことをしなければいけないということではなく、私たちが日々神様から言われる小さいことを一つひとつを行い、積み上げていくことです。それによって私たちは自分を通してイエス様を伝えるヒストリーメーカーとなるのです。イエス様に結び付けられている私たちはイエス様のヒストリーを日々書き続けなければいけません。

では、どうすればいつも自分のことばかりに目をむけずに歩めるのでしょうか。それはあなたの人生に大きなハプニング、悩み苦しみに遭ったときにどうするかが肝心です。そのとき私たちは神様の前に出て行かなければいけません。その姿を、エリヤを通して神様から聞いていきましょう。

この時代、イスラエルの王であったにもかかわらずバアルとアシェラに仕え、本当の神から離れ主の預言者を殺し、神の前に悪をおこなったアハブ王とイゼベルがいました。また民も、長い飢饉で苦しめられたときも850人のバアルとアシェラの預言者と本当の神の預言者エリヤが対決し神が勝利したときも、数々の奇跡をみたときも他の神々を捨てず主に立ち返らない状況でした。そのなかで、エリヤはイゼベルから命を狙われ荒野へ逃れ、神に自分の死を願って語ります。そこには自分のしていることに無意味さを感じ、耐えられない苦しみと悲しみの中にあるエリヤの姿がみられます。しかし、神様はエリヤに語りかけ、彼の心を変え立ち直らせます。

このエリヤに起こったことは私たちの日常でもいえることです。この箇所から私たちは、本当に辛く困難の中にあるときでもあなたが神様の前に出るなら神様は心えてくださり、あなたの人生を変えてくださるということを知ることができます。神様は今、目の前が見えなくなるとぶつかってしまうあなたを見えるように変えようとしています。もし、あなたが何度語られてもやらない、何度聞いてもできないという状況にあるのなら、それはあなたの前が見えていない証拠です。目の前を隠されているなら神様にその問題を取り除けていただき、あなた自身が変わって神様の目的地に行けるようになります。とはいえ、私たちは厳しい目に遭ってこそ変われることもあります。神様は初めから苦しみに遭わせようとしているではありません。神様はあなたが大問題に遭遇する前に小さな問題で気づくように働かれます。このとき、神様と共にいるならどんな問題も問題ありません。しかし神様が共にいないとき問題に遭うと苦しいです。でも苦しいときはチャンスだと思ってください。神様はそんなあなたを正しい道に戻したいのです。そして私たちと共におられる聖霊様は戻ろうとする私たちを助けてくださいます。

ですから私たちがやらなければいけないこと、**1. 思いに変化を与える**（コロ3：1-6） イエス様を信じた私たちの心のうちには、その瞬間に神様が住まわれます。ですからクリスチャンである私たちは次第に頭では理解し心でやれるようになり、思いを変えられているのです。ならば、私たちはイゼベルのようなむさぼり、全部自分のもの＝偶像礼拝という心をとらなければいけません。なぜなら私たちが見なければならぬのはこの世にあるものではないからです。「思いに変化を」とは、私たちがいつも上にあるもの＝神様に心を留め求めることです。問題を見るときはいつも神様をとおして見て心を変えていきましょう。そしてそれができるようになった私たちは、**2. 言葉に変化を与える**（詩120：1-4） 詩篇の120編からは都上りの歌が続いていますが、この詩を通して私たちは神様の前に出るときにすべきことを知ることができます。この詩の中とエリヤの箇所に「えにしだ」がでてきます。この木は呪いや苦しみの象徴で、苦しみのときに口から出る悪口は半年残る、と当時の人々がえにしだを使って表現しています。ですから私たちは言葉を制御していきましょう。そして次に、**3. 態度に変化を与える**（テトス3：1-5） 言葉は独り歩きし、記憶までも変えてしまいます。だから言葉を制御できたなら、行動を変えることができるようになります。イライラしているときや焦っているとき、自分が先に出ているときは聖霊様が働かせません。ですが、みことばにもあるように私たちはこのことを努力でやるではありません。ただ神様の御前に出て主に頼り立ち上がろうとする人に、神様は苦しみや悲しみを取り去り、力を与え、共に歩んでくださるのです。そして最後には自分で歩けるようにしてくださるのです。神様から解決法をいただき、頑張らなくとも頑張れるように、そして自然に栄光をあらわしていけるようになります。

そして、あなたの全てを神様の御前に出し神様に委ね、困難・葛藤を乗り越え、日々新しく作り変えられましょう。（要約者：金光 瞳）